

# グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト 米国現地研修ジャーナル（2002年8月17日－8月29日）

鳴門教育大学学校教育学部附属小学校 教諭 小川 雅 功

8月17日（土）



機中にて、パワーポイントの使い方を実行してみる。割とすんなり動いてくれそうなので安心した。飛行機はとにかく退屈、雑誌なし、映画は英語なぜか中国語字幕、パソコンの稼働時間がせめてあと3時間ぐらいあればなあ……。

テーマやそれぞれが集めてくるものによってサマリーでの発表内容は決まると思われる。鳴門組はそれぞれが授業実践を行うというところが売りであるが、どのようなものか……今後の交流につながる糸口（ちょっと太め）をなにがしか掴んで帰りたいものであるが……

[自分自身の課題]

- ・現地の吹奏楽指導の実践に触れ、実態を体験的に掴む。
- ・日本の文化である伝統音楽をともに楽しみ、反応を得る？ 交流の糸口とする？
- ・3年生からのおみやげ、1年生のおみやげから何か交流はうまれないか。
- ・コンピューターの整備状況から具体的なやりとりの方法を掴む。
- ・3キロやせる!!!
- ・英語の歌の順序？ について調べる。

8月17日（日） 午前1時30分（以降現地時間）

デトロイトに到着が午後4時前、空路シャーロットへ午後7時ごろに到着。大学の先生マクギンティ夫妻



の歓迎を受ける。大学の車と小野先生運転のレンタカーに分かれてウェストカロライナ大学の宿舎へ……。車で約4時間とのこと、途中ドクターD? で夕食、シーフードレストランだが、全部揚げ物ばかり……おいしかったけど。結局、小野先生がぶっとぼしたにも関わらず到着は12時30分。夜なのでよくわからないが、大きな大学（これでも全米では小さい方）宿泊施設も充実している。デジカメ充電、パソコン充電、入浴をすませてそろそろ眠ろうかなというところ、現在午前2時ぐらいか……。

明日の活動に備えて早く眠ろうと思うが、やや興奮気味。

8月18日（日）

7時20分起床、40分程度付近を散策、大学校内なので治安はよいとのこと、すれ違う人も学生風、気持ちよく挨拶してくれる。

ブラウンカフェテリアにて朝食、3ドル95セント、食べ放題だが、今後のためにやや控えめ。

10時30分より滝へのハイキングへ、山がなだらかで植生が日本とよく似ている感じ、途中、サブウェイ（サンドイッチ）にて昼食のサンドイッチを買い込む。運転も含めて昨日より、ディキシー夫妻にお世話になる。滝壺で泳げるとのこと、海パンで挑戦、あまりの冷たさに心臓が止まりそうになる?! でも、楽しかった。

午後4時頃帰り、明日の出し物等に向けてトロンボーンの練習と大学グッズの買い物、グッズ売り場を見つ



けられず、トロンボーンの練習ができることは非常に楽しいのだが、蚊がたくさんよってきて練習に集中できず……。夕方少ない時間でランドリーを利用、洗剤を入れなければだめとのこと、半乾きで干してしまったものをどうしよう……。

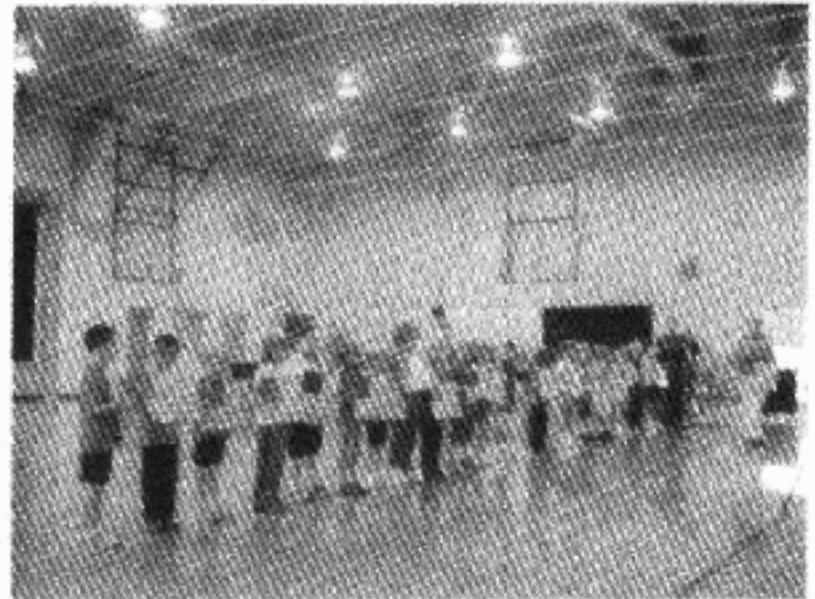
夕方よりベニー先生のお宅で持ち寄りパーティ、おみやげを持っていく。他いくつかのおみやげを小野先生にあげる（いろいろお世話になっているのでこれぐらいは……）。ネイション校長先生と再会、授業のことを谷口さん（通訳）を通じて聞いたところ、110名に対して阿波踊りということだった、なんとかひとクラスぐらいに1時間、全体1時間と変更してもらおう。いよいよ明日から研修、今日は少しは早く眠れそうである。

### 8月19日（月）

6時起床、外はまだ真っ暗、やはりサマータイムってこんなところがどうなのかと考えていたが……これで夕方暗くなるのが早いとやはり困るなあと思う。6時20分より探検をかねてウォーキングに出る。だいたい大学校内の様子は掴めてきた。途中ジョギング中の喜多先生と出会う。今日はフォーマルな会が多いので背広で準備をしていた。つつい遅くなり結局ぎりぎりまでパンに乗り、まずはカロウェイパレー小学校へ。保護者が子どもを送る車の列の長いこと、学校と家との距離を考えると仕方がないことなのだろう。

玄関で和服を着た教頭先生と8年生の女の子2人に出迎えられる。入り口には日本語で歓迎の文字が書かれている。日本では鳴門第1小と交流をしていたとのこと、校内のいたるところに、書道や武者人形などが並ぶ、日本の食品などを集めたコーナーもあった。

図書室にまず案内され、図書室の様子にびっくり。広くて、本がたくさんある。PTAの方だという4人



の女の子から接待をうける。

まず体育館で歓迎会があるとのこと、行ってみると全校生徒が並べるギャラリーがあり、子どもたちが行儀よく並んでいる。各学年ごとに踊りの出し物があり、1クラスぐらいの子どもたちが発表をしてくれた。フォークダンスが主で、楽しそうだった。子どもたちの素朴さ、人なつっこさが印象に残った。阿波踊りの発表では全員参加し、楽しくおどった。

音楽を指導していた先生に挨拶をしたところ、音楽室へと案内してくれた。楽器の数はそうでもないが、教室が少なくとも3つ、それに付随して準備室等が整備されていた。先生の家族の方が急病とのこと、あまりよく見学することはできなかった。（残念!）

はじめ出迎えてくれた、8年生の女の子に案内され、3年生の教室へ。女の子が一生懸命説明してくれるが、意味がよくわからない。はじめ3年生の教室には誰もいない、外へ遊びに行っているのだろうとのこと。いっしょに外へ出てみると外で遊んでおり、担任の先生が遊んでいるのを見ていた。女の子が言うと担任の先生が子どもたちを集め、教室へ入っていった。

### 《授業観察1 3年生 国語科、算数科》

はじめ、教師による質問形式の国語の学習が始まった。場面にあった会話を選ぶというもの、次にドリル形式で文末に書くピリオドとクエスチョンマークを選ぶ活動、これにはカードを用いて、教師の提示する文章に対して全員がどちらかを選んでいく。時間にして15分ぐらいだろうか、突然、教師が教科書を片づけるように指示し、算数の授業へと変わった。各自に白板が配られ、教師の出す問題「1. 十の位、一の位、2. 二桁の数（一の位は0）と一桁の数の足し算、3. 言葉で書いたものを（二桁）を数字で書く」に全員が答えるという活動であった。全員が書くということと、

他人に頼らずに答えを書くということに主眼をおいた指導であった。子どもの意欲はあまり高くない。が、全員の子どもにという意識は伝わってきた。(このレベルでも間違っている子がいたが、ぜんぜんそのことは気になっていないようである。)5年生まではこのように合科的?な指導が行われているとのことだった。

#### 《授業観察2 5年生 社会科》

地理についての学習(資料あり)後半で質問をしてもよいかとのこと。こころよく引き受ける。授業はそっちのけで、女の子に歴史、地理の学習について質問、2年生から地理の学習があるという、歴史に関して、同様にはじまるとのこと、日本のように系統だった学習というのではなく?トピック的な学習が進められ、高学年に行くに従って、系統的に教えているのだと理解。

質問は、こちらの学校の規模、始業時間、終業時間、修学旅行の行き先、などであった。社会科の授業をしていたのでそのことに関して質問が来るのかと思っていた分やや拍子抜け、ただ、一生懸命聞いても質問わからず、もちろん答えも十分でなく語学力のなさを痛感した。でも、なんとなく交流気分!、3年生のクラス同様おみやげをくれたので、お返しにハンカチを送る。もっと気のきいたものを持ってくればよかったと思った。

#### 《昼食 ランチルームにて》

ランチルームにて昼食、子どもたちは全員集まるのではなく、順々に担任の先生に連れられてランチルームへとやってくる。カフェテリア形式による昼食で小さい学年も結構整然と食事をしている。食事は各自とったものをその場で精算、パソコンにより親の口座からすぐ引き落とされるようなかたちで進んでいた。昼食時には、アイスクリームやスナック菓子を買うこともできる。また、廊下にはジュースの自販機もあり、授業中でも机の上にペットボトルが出ていることもあった。

とにかく「Children Farst」これは日本でもよく使う言葉だが、施設面でできる限りの努力が払われていると強く感じた。

#### 《スモーキーマウンテン高校にて》

校長先生による案内、様々な施設がありおどろく。体育館やグラウンドの立派さもさることながら、台所が8つも9つもある家庭科実習室や、金属加工、木材加

工の実習室、機械、電気の実習室もある。学校が普通科だけでなく総合的な高校であると聞き、納得。入学を希望すれば、全て入学でき、それぞれの希望により、専門的な科を選ぶことができるそうである。授業を受ければ大学の単位を取得できる進んだ子どもへの教室や、軽度の障害児の通う科もあった。トロンボーンをせっかく持っていったが、一番興味があった課外活動のマーチングバンドは見学できず。明日ということになった。

#### 《教員研修センター》

至れり尽くせり。教員が研修したいと思えば、参加費(交通費、宿泊費)だけでなく、その教員が不在の時の学校での指導者の保証もしていくとの説明にびっくりした。

#### 《歓迎バーベキュー》

バーベキューといっても一般に想像するものではなかった。後のレセプションにはあまり料理が出ないのことに気にして開いてくれた。大の親日家らしく心のこもったパーティであった。

#### 《レセプション》

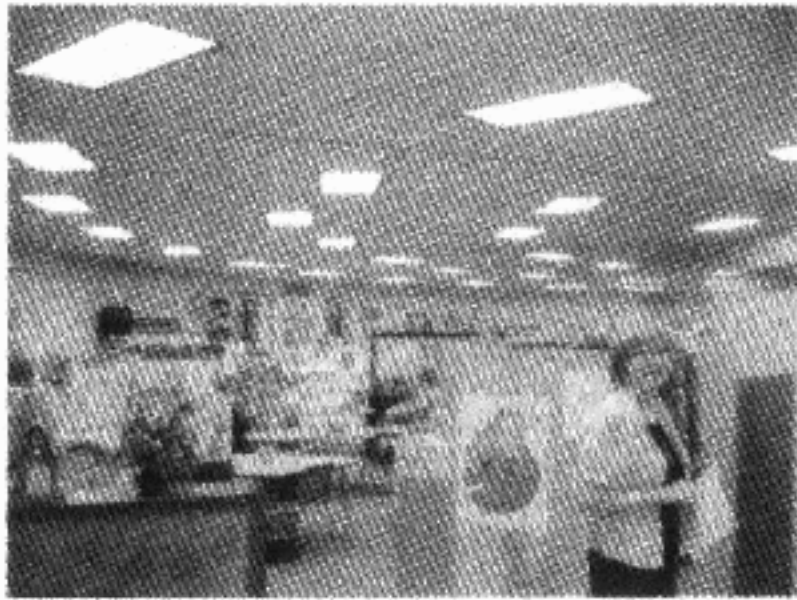
いつはじまったのかよくわからない。とにかく人がぞろぞろ集まったと思ったら食事をつまみ、ジュースを飲み始めた。ネイション校長と、スモーキーマウンテン高校のボビーヘンダーソンさん、通訳でお世話になるエノモトマサシさんとお会いできたのが収穫。ネイション校長からは明日からの予定をいただく。自由にということだがとにかく行ってみないとよくわからない。

#### 8月20日(火)

7時に渡辺先生とともにスモーキーマウンテン高校の先生(ベンダーガストさん)に拾ってもらって登校。

到着後、ネイション校長先生がスクールツアーに連れて行ってくれる。メディアセンターを中心にしたオープンスペースで体育館ほどの円形の空間をそれぞれ6クラスが使っていた。案内の途中で時間がなくなり、ウェルカムアセンブリーへ。8時10分にアメリカ国歌が放送される。その間児童、教師は手を胸にあて、国旗に向かう、小声で歌っている人もいる。その後、宣誓のような言葉を校長先生が放送する。これも復唱しているようである。

エントランスのホールで歓迎会が催される。学年か



ら1クラスぐらいが集まり、3、6、7と各学年の有志の子どもたちが歌を披露してくれた。なかでも6年生は「小さな世界」を英語と日本語で歌ってくれた。先生が大の親日家みたいである。

はじめに3年生のクラスへ。時間が9時から11時15分まであり(3年生がランチタイムとなるまで)その間に4クラスでいろいろやってほしいとのこと(見学でもよいと言われたが)。いろいろ考えたが、折り紙を用意していたので2クラスで折り紙、残り2クラスで松永先生から預かってきた手紙や絵を渡すということにした。

はじめのクラスで後で話すことを考えて、鶴を折ってみることにした。しかし、昨日3年生を見学した様子から、3年生に鶴は難しすぎると思っていたのに、そのままやってしまった。結果50分も時間がかかり、担任の先生やアシスタントの方(4年生までアシスタントがつく、担任は各クラス1人子どもは1クラス26人)に迷惑をかけたのではないかと。ただ、子どもは鶴にとっても喜んでいたのである。

2クラス目は鶴の反省を生かして、かぶとに変更、ただ、かぶとは日本語スタッフ(この9月で契約が切れ、現在は旅行中とのこと)と作ったことがあると聞いていた。時間的にはちょうど良かった。子どもたちはかぶとのこともさほど覚えていなかった。

3クラス、4クラスへいこうとすると子どもたちは移動を始めていた。ホールでバスの乗り方についての指導があるとのこと、教室を見学しながら待つことにした。

3クラス、4クラス目、松永先生から預かってきた絵を渡す。また、日本語の手紙を紹介し、交流の希望があることを伝えたので、帰国までには何か作っていただけるとのことだった。

子どもたちは非常に人なつっこく接してくれる。もの珍しいのも手伝って、私がやろうとすることにも熱心に取り組んでくれた。

続いて、6年生のクラスへ案内される。地理の授業中、地形について子どもたちがそれぞれ調べたこと(教科書に載っている)を発表。中にはインターネットで画像をプリントし、紹介する子もいた。日本語OSの入ったコンピュータが1台あるとのこと。案内してもらおう。

朝、日本語の歌を歌ってくれた学年で担当のKrisutin Saveryは6月に私と同じように姉妹校提携をしている厚木第2小学校へ行っていたそうである。教室にはその時のおみやげがディスプレイしてあった。6年生ではその先生についていくということで(先生が教室かわる:一部教科担任制)、そのクラスとはランチタイムまでになる。そこで、質問の時間をとってほしいとのこと。自己紹介をし、質問に答えた。質問の内容は、学校規模、日本の子どもの生活に関するものであった。

そのまま、そのクラスの子どもたちと昼食、昨日の学校もそうであったが、ランチルームに全校児童が入りきれないため、時間を決めて利用していた。時間割はあるが、時間の使い方はかなり自由で、決まった教科(音楽と体育)以外の時間は担当の教師が自由に活動を決めていた。

午後は、少し体育の学習を見せていただいた。野球のようなものを行っていたが、運動場は逆に狭く、(野球のボールは穴のあいたプラスチック製であまりボールがとばない)子どもたちの自主的活動というよりも、専門の体育教師によって運動させられている?といった感じの体育だった。ゲームのルールや公平性については指導をしているようだったが、スキルについての指導はほとんど行っていなかった。次はまた、別の6年生のクラスへ。さきほどのKrisutin Saveryの担任のクラスで、自己紹介のビデオを見せ、質問タイム。今回は日本のテレビゲームについての質問が多く出た。同じようなゲームをこちらの小学生もやっているようである。そのあと、阿波踊りをいっしょに踊った。鳴り物もなにもなかったが、非常に楽しそうに取り組んでくれた(阿波踊りいけるかも……)。少し休憩して、Krisutin Saveryの授業を見学。学校から少し離れたところにある池へ行って観察、思いつくことを書くという学習であった。作文の前段階の学習である。外は

非常に暑かったにも関わらず、こどもは熱心に取り組んでいた。学習の見通しをうまく立てて行っているように思い、学習計画を見せていただいた。手引きのような活動が有効に機能していたのではないかと思った。素晴らしい授業であった。

放課後、マーチングバンドを見せていただくためにスモーキーマウンテン高校へ。グラウンドで練習をしてはいたが、ディレクターとコンタクトはとれなかった。よく考えると、コンサートバンドの方が見たかったが、こちらの練習は授業中、1時30分からなので、小学校の授業とかさなる。小学校での指導の様子は見せていただけるので、そのときにお話を伺うということになった。

夕食は、喜多先生やこちらのメンバーとともに大学本部前のカフェへ。カネロニとサラダで8ドル? 量からすればかなり安い。7時30分から報告会、英語での説明が大変であった。

#### 8月21日(水)

5時起床、昨日の飲酒(少なかつたはずだが)がこたえて頭が痛い。日記を書いて準備をした。7時に喜多先生、渡辺先生とともに学校へ。ついて校長室へ行った後、昨日の大学で講義をしているというトランペット吹き Uhrich さんが楽器を4つも持ってきてデモンストレーションをしてくれた。多分大学での講義のための準備だと思われるが、いきなりヴェニス、ファイヤーワークスと吹きまくってくれた(二日酔い吹っ飛ば)。お子さんがフェアビュー小学校へ通っているとのこと。名刺を渡して友達気分。

学校の地図をもらい、学校探検にでかけると……いるわいるわ、楽器を持った子供に多数遭遇し、インタビューをしまくった。はじめに見つけた少年は打楽器



奏者、夢はハードロックドラマーになりたいとのこと。スティックとバットを持っているのですぐわかった。7、8年生の棟(こちらだけ別棟)で見つけたトロンボーン吹きの少年、クラリネット吹きの少女、一様に将来はスモーキーマウンテン高校でマーチングバンドに入りたいとのことだった。練習をしているところも見つけ、しばらくしていってみると。昨日はあえなかったエリックさんに合うことができた。少しだけお話を聞くことができたが、とても若い。どこまで見せてくれるのかはわからないが、校長先生の話では、高校のコンサートバンドも見せてくれそうである。できれば練習に参加させてもらえたらいいのだから。少し疑問なのは、確か昨日の話では一年間を通してバンドをするのではなかったように思うのだが、金曜日に質問してみよう。

おかげで、肝心の授業見学に少し遅れてしまった。Jouce Dyerさんの2年生の授業をはじめに観察させてもらった。はじめは音楽を聴きながら、絵を描くという作業から始まり、絵本を見ながら、歌を歌う。歌った歌の詩を読み聞かせて、それを絵に表す。できた者には次にすることが準備されている。まさに生活学習といった感じの授業であった。生活学習というそれぞれが得意な(教師が)ことを生かしてとよく言われるが(私は)ここまで徹底してやったらそれはそれで素晴らしいことなのだと思います。児童数は18人とのこと。40分くらい教師の指導があったあとは同じく40分くらい自主活動。「日本の歌を教えたい」といったところ快く引き受けてもらった。質問タイムの後、「いちにのさんにのしのご」と「こぶたぬきつねこ」と「なべなべ」で遊ぶ、活動は楽しくできたと思う。

#### 《8年生の数学の授業》

OHPを使って練習問題をといている。その後統計学の学習。はじめ例を示したあと、各グループに分かれて、実験を行っていた。優秀な生徒とそうでない生徒を混ぜたクラスだそうで、4人ずつのグループ分けもコンピューターで行っているとのこと。優秀な生徒がそうでない生徒をひっぱって学習効果があがることを狙っているということだった。授業の進め方は前半はまったくの教師主導型、そして、後半子どもの自主活動というものがほとんど。逆に言えば画一的と言えなくもないが……。ずっとこのスタイルが貫かれるから子どもたちは動けるのかもしれない。

同じく8年生の体育の授業に参加、ラインサッカーの授業だといっていた。日本のラインサッカーとはずいぶん違う。特に教師からの指示はなく、運動を楽しんでいるという感じ。男女の区別はまったくないが、サッカーのボールはずいぶん柔らかいものを使用していた。

Marianna Kesgenさんの環境教育の授業をみせていただく。GLOBEというのだそうだ。世界で多くの(日本も含めて)国の学校が参加している観測したデータを送って地球の現在の様子を知ろうというものだった。このプロジェクトについては以前に話を聞いたことはあったが、実際に授業を見せて頂くのははじめてだった。途中ランチを挟んで講義、実験というパターンで授業が進められるのだが、子どもたちの意識をインタビューすればよかったと思う。もし機会があればインタビューしてみよう……。

続いてAngie Dillsさんのコンピューターの授業を見せていただいた。事前に約束をしており、途中から明日の阿波踊り学習のための楽器の手配のため抜けさせてもらった。今までの中では一番いいパソコンをつかって、様々なソフトの使い方を学習していた。教科書はどれもアップルの方から支給されているのではないだろうか(ロゴが入っている)。

校長先生にお願いして、音楽の先生に会い、楽器を見せてもらった。大太鼓にあたる楽器をどれにするか少し困りそうだが、まあ阿波踊りだし、気楽にのぞむことにしよう。

夕食をロイスさんに連れて行ってもらってはじめてこちらのレストランへいく。料理はまあまあこれまでのなかでは一番料理らしいものが出てきたのだが、とにかく量が多い、残念ながら残してしまった。疲労のため、ジャーナルを書けず早々に寝ることにした。

## 8月22日(木)

阿波踊りの音楽の授業日、早々にフェアビュー小学校へ。楽器を運んで授業の準備。8時15分～9時、音楽を演奏する子どもたちと阿波踊りの音楽の学習。リコーダーについては習っているかどうか分からないということで、横笛のパートはキャンセルする。カネで指揮をとろうと思ったが、すでに子どもが持っていたので、そのまま練習を続けさせることにした。7年生(日本では中1ということになるが)、音楽の能力的に



は(1時間ではよくわからないが)あまり日本の5、6年生と変わらないのではないか。事前にこの子どもたちがどのような音楽を学んできたのかがよくわからないため非常にやりにくかった。それでもなんとか一通り楽譜をさらって、一応強弱やらスピードの変化を教えた。しめだいこがやや難しいためか早くなる傾向があった。短時間でしあげる場合には検討の余地があるかもしれない。

9時になり、踊りに参加する子どもたちがやってきた。基本の動きである足の運びを全員でやった後は手の動き、足の運びで一息ついたので手の動きにうまく結びつけられたように思う。円形の建物を利用して、中心に打楽器群を配し、その周りを2重に子どもたちが踊るように設定した。踊りの方はすぐに格好がついたので、途中思いつきで、方向転換、ポーズして方向転換と変化を持たせた。なんとか興味を持ってやってくれていたように思う。最後に自らカネを使って強弱等も考えながら踊りを踊った。とにかく、阿波踊りに感謝しなければならない。不思議なものでホール全体に一体感が生まれたように思う。成功であった。

幼稚園の授業を見学。屋外のプレイグラウンド(遊び場)での遊びの時間だった。21名を1人の先生と1人のアシスタントで見ているとのこと。少し子どもの数が多いかなと思った。プレイグラウンドは広いのだがもう一つ自由に活動していない感じがしたが、気のせいだろうか。

特別に時間を変更してランチの後スモーキーマウンテン高校のマーチングバンドの練習を見学に行った。座奏による練習をしていたが、さすがに本番間近ということで中には入れてもらえず、ビデオはとったがまあ、練習自体に目新しいものはない。練習用の楽譜はなかなかいい感じであった。練習後、高校生と若干の

交流。楽器を吹いた。

5年生の教室へ帰ってきて、毛筆を披露、「山」、「川」、「海」、「水」と書いた後リクエスト「木」、「虎」、「猿」、「本」と書き、子どもたちにも書かせてみることにした。物珍しいためか、大人気でいっしょに楽しい時間を過ごすことができた。

#### 8月23日（金）

フェアビュー小学校最後の日、前日より泊まっていた通訳の榎本君といっしょにフェアビュー小学校へ行く。今日はいよいよバンドの日なので楽器を持って練習場へ。練習場につくとエリックさんがすでに準備中、とらのまきをあげて、風の精のビデオを見せながら、交流のお願いをしたところ、ありがたく引き受けていただいた。9月のコンサートの模様を送りフェアビュー小学校からはマーチングバンドの様子を送ってもらうことにした。そのあと、頼んで練習に参加させてもらう。はじめの合奏の総人数は50名くらいか、みんなそれぞれにやりたい楽器を選んでいるのだそうだ。7、8年生というから日本では中1、中2の学年である。にしてはややものたりない感じ、ただ、教則本の曲はどんどん進んでいく。この方が確かに子どもにとってはおもしろいかもしれない。が、はたして技術はあがるのか……よく聞くと、パート練習も行ってはいるとのことだった。

後半は初心者学習。まだ楽器がきていないので、全員で、ソルフェージュ？ リズム等の基礎を学習していた。しかし、9月の末には楽器がきてそれを演奏し始めるとのことであった。

次に1年生の教室でかるたを実演し、実際に遊んでみた。いろいろ障害はあったが、絵札の紹介で学校の様子を紹介できたらと考えていたのでよかったと考え



ている。いっしょに遊ぶことによって日本の子どもたちへの親しみもわくと考えていた。はじめのクラスではあまり時間がとれなかったが、Gail McMahanのクラスからはお礼のお手紙をいただいた。日本に持ち帰り紹介することと、同じくわらべ歌を教えたので（いちにのさんにのしのご）、帰国後、こちらから歌の入ったVTRを送る約束をした。いい感じ……。

次に6年生のコークパーティなるものに参加した。これは一週間の努力？をねぎらってコカコーラのような飲み物を飲みながら、遊ぶものだそうだ。ところが一週間のうちに何か悪いことをした子は参加することができず、陰に座ってじっと見ている（監視付き）妙にアメリカらしい光景だと思った。ただ、そうやってみている子の何人かはどうして見ていなければいけないのかがわかっていない、これはどうかと思った。

放課後、ディキシー先生のはからいで、WCUのマーチングバンドの練習を見せていただいた。向こうではユーリッチの弟子が挨拶に来たり、わずかな期間だったが、なんか知り合いがたくさんできてうれしい感じ。練習は、パート練習、セクション練習そして合奏とさすが大学といった感じ、あきらかに高校とはレベルが違う……。このへんの違いがよくわからない。自主的に音楽をするということの一つの完成体といえるのかもしれない。演奏はさすがといった感じ、ただ、PAによって歌をいれているのだが、バランスがちょっと気になった。PAの活用方法については研究するといふことがあるかもしれない。

ネイション校長先生がホストファミリーになってくれるとのこと、通訳のまさし、ネイション校長先生の家族とともに夕食。おかわり自由のバイキングスタイル。結構おいしい。たくさん食べてさらにデザートはどうかと聞かれ、みんな食べるのかと思って注文すると、私と校長先生の旦那さんだけがピーナッツ何かというケーキを食べた。おいしいのだが、甘い、重い……。その後、チェロキーインディアンの劇を見せてくれるとのこと。地元の音楽からはじまって暗くなってから劇がはじまった（だいたい9時ぐらい）。ところが英語がわからないのと今週の疲れで、結局ほとんど寝てしまった。夏のこの時期にしか行われていないそうで、たくさん人が集まり、劇を楽しんでいるという感じ。残念なことをした。ただ、雰囲気は非常によい。ヨーロッパの音楽祭なんかもこんな感じなのかな？タ

ングルウッドってたしかアメリカでなかったかな。質問してみたい。

夜は校長先生のお宅でお世話になることになった。2人の娘さんがもう外に出ているということで娘さんの部屋を使わせていただく。まさにアメリカンな感じでおもしろい。

#### 8月24日（金）

午前8時30分ぐらい、ネイション校長先生の家で目覚める。アメリカへ来て、はじめてぐっすり眠った感じである。そのままジャーナルの続きを書いてから旦那さんとお話。朝食をとって付近の滝や池を案内してもらう。なんと全部校長先生の家のもらしい。土地というよりも山を買っているような感じだ。プールもある。さらに家の中を案内してもらっていると角笛を発見。ラッパと同じ要領なので吹かせてもらうとえらく感激され、昔のラッパを旦那さんが持ってきた。これまた吹くと、古いからあげるとのこと。遠慮なくいただくといってしまったのだが……。校長先生の弟さんが来て、どこかへと出かけたのは2時前ぐらいから。でも、十分あまり遠くへいっても疲れるだけである。滝の後ろを通ってみたいかといっていた通り、きれいな滝がたくさんある方へドライブに出かけた。途中駅などへ寄り、滝へとついた。本当にこのあたりには美しいところが多い。びっくりしながらいろいろと案内してもらった。帰りに夕食の買い出しに食料品店によった。とにかく大きい。びっくりするようなサイズばかりでしかも安い。一週間分の買い出しをすると聞いたが、一週間ではとうてい食べきれないのではないかと思う。

買い物をして、家に帰るとお孫さんが来ていた。しばらくすると、旦那さんが海水パンツを持ってきてジャ



グジーに入らないかとさそわれた。海水パンツは自前のがあるので、それで入らせてもらうことにした。お孫さんと3人で遊びながらジャグジーへ。1時間あまりも入っただろうか、ビールを飲みながら、ゆったりとした時間を過ごした。

夕食を集まってきた家族の人たちといっしょにとって、なぜかわからないが、ピアノとトロンボーンのコンサートへ。みんなが盛り上がりってくれるのでこちらも調子に乗って、吹きまくり、みんなからいろいろなプレゼントをいただいて、一日が終わった。

#### 8月25日（月）

午前6時30分起床。移動の準備をして、校長先生たちと家を出る。本当にお世話になったことに感謝したい。朝食の時、校長先生と話し合ったこと。パートナーシップをこれからも充実させていく上で、日本側の教員の移動のことが話題となった。附属はだいたい7、8年だということあと4年……。しかし学校を変わってもフェアビュー小学校との交流を続けて欲しいとのことだった。結局そうなるのではと考えているが、これを機会に日本の小学校とフェアビュー小学校、また、他の学校と交流を続けていこうと考えている。

マジソンホールから車で6時間だそうだ。大変な距離である。こちらにつくと随分様子が違うことに気がつく。シルバはいいところだったのだなあ。アメリカにもいろいろあるな。

到着後、サマリーの話し合いをして、夕食へ軽くハンバーガーと思ってもとにかくでかい。早く仕上げて、朝、散歩しようと思う。ところが、プレゼンの準備が終わったのが、朝の5時でした……。





8月26日（火）

午前8時起床。さっそく下へ行ってバンに乗り、サマリーの会場へ行った。明日学校訪問に訪れる博物館附属のチャータースクールのある博物館で発表会が行われた。会場に着いてもパソコンが使用可能かどうかがとても心配であった。いくらこちらの方がコンピューターに関しては進んでいるといってもやはり細かい点で微妙に違いがある。本当にもう一息というところだがこの違いでパソコンの場合、1か0かだから大変である。会場のAV関係の担当の方が手伝ってくれてなんとか準備の方は間に合った。

はじめに広島地区、そして大阪地区、いよいよ我々の番である。私はグループの一番はじめの発表なので非常に緊張した。結局、ビデオの切り替えがうまくいかず、少してまどってしまったが、なんとか発表を終え、残りの方たちのプレゼンを手伝うことができた。

発表後、様々な質問が出、それぞれに答えていたが、昨日遅くまで準備にかかったのがたたり、眠くて何をいていたのかよく覚えていない。昼食を同じ場所で食べ、買い物などをして時間を過ごした。午後になり、何人かの方の講演を聞いた。そして、4時ぐらいにいよいよウェストカロライナの人たちとお別れ。ドン・スペンス先生のいうようにこの交流がまた3年続いたらよいなと思う。ホテルに帰ってすぐに、買い物。非常に大きなショッピングモールで3時間ぶらぶらとした。夕食は、大阪地区の人たちといっしょに、和食のレストランで食べた。お寿司となぜかビーフステーキ。まあまあ、でも、ひさしぶりの日本食はやっぱりいいなあと思った。



8月27日（水）

午前6時起床。朝、小濱先生といっしょに歩こうと約束していたが、雨天のため、中止。結局、7時30分に近所のレストランへ朝食を食べに行くまでぶらぶらとし、近所のレストランへ。喜多先生、阿部先生、渡邊先生、小濱先生と食べに行く。とにかく量の少ないものをと目玉焼きとホットケーキの朝食を選択。はじめはおいしかったがバターがいっぱいでやっぱり重たい感じ。

8時45分にスペンス先生達が迎えに来てくれて、博物館立のチャータースクールなるものを見学に行った。8年生の子どもが案内してくれて、各学年の授業を見学した。6、7、8年生（ジュニアハイスクール）ということだが、教科担任制である他の学校と違って、これまでにアメリカで見た4年生までのクラスのようなやり方（この場合は2クラスで学年担任制のようにしていた）で授業を進めていた。どちらが、ということなんともいえないが、これまで見てきた中学校の中ではやはり生き生きとしていたと思う。案内をしてくれた2人の子のしっかりとした感じと、目的意識をはっきりもっているという感じが印象的。とにかく、アットホームな感じが非常によかった。

続いてエクスペローラー博物館の見学。探検の名のとおり、単に地理的な意味だけでなく、心の探検のようなものを目指しているのではないかと感じた。昼食は学校ごとに、アメリカンなレストランへ行った。ビスケットと紅茶を注文した。

サイエンス博物館の見学、子どもの頃憧れていた恐竜の骨を実際に見ることができて感激した。クジラの骨も実際につるしてあったりして、とにかくスケールの大きさにびっくりした。

教育委員会の訪問。訪問はしたのだが……とくにど



うということなし。教育課程、評価、研究、すべて子どもと教材そして教師がいて成り立つものだと思う。参考になるところもあるかもしれないが……。せっかくだから、日本に帰ってからホームページでも見てみよう。

ホテルへ帰って少し時間があつたので、小濱先生と近所を歩き回った。大きな家がよく見るとアパートだったり、近くに様々な店があつたりといくつもの発見をした。が、キンコスは見つかりできなかった。

昨日のショッピングモールで買い物、今日はトイザラスへ行ってみた。日本と違うおもちゃのかずかずにびっくりした。同じショッピングモールのフードコートで簡単に夕食。いよいよ明日は飛行機で日本に帰る。ローリーはやはりあまりなじめない。それほど山がよかつたのだろうかあと改めて思った。

#### 8月28日（金）

午前4時起床。デトロイトへの飛行機が9時30分発のため、荷物の搬出、チェックアウトも考えてこの時間となる。いよいよアメリカともお別れ。気分的にはラーレイへ来たところで終わった感じだったのであま

りこちらの観光的な滞在には意味がないように思った。

荷物の積み卸しをする人3人が先にラーレイ空港へ行き、荷物を見張りながら、おろした。その後、バンに残りの人が乗ってやってきて、いよいよチェックインとなった。問題なのは荷物の重さである。団体なので、積み込み2個、手荷物2個だそうだ。70ポンド以上は追加料金がかかる。私は前日購入した鞆を使って2つに分けていたがそれでも随分重い。ドキドキしながらはかりにかけると、重い方がなんと70.0でオッケーとなった。手荷物はいくら重くてもいいそうで、喜多先生などは買った本をバックバックにいっぱい詰め込んで難を逃れていた。

税関でのチェックも大変厳しくスリッパの裏までチェックされた。逆にこれは安心なことだと思った。

団体行動なので、デトロイトでの乗り換えも安心して行えた。とにかく、無事に着くことを祈って機中で最後のジャーナルを書いている。様々な人たちと知り合いになれたこと。まず、これが一番の収穫だと思う。こちらへ来る前に感じていた倦怠感を一扫し、また新たな気持ちで教職に取り組んでいけそうな手応えを感じている。

## グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト 米国現地研修ジャーナル (2002年8月16日 - 8月29日)

鳴門市立明神小学校 教諭 吉成悦子

初めてのアメリカ訪問。

2001年9月11日のテロ事件以来、渡米することに対して世界中がかなり敏感になっている。しかし、そんなことよりもアメリカの小学校で実地研修ができるという、またとない機会の方が、私にとって重要なトピックであった。

今年の夏休みは、ことのほか多忙であった。その疲れもあってか、大阪に発つ4日前に「蜂窩織炎」という初めて聞く病気にかかり、発熱と痛みを伴い、出発が危ぶまれた。

8月16日の午前中は、まだ病院で点滴と消毒をしてもらい、英語で書かれた医師の診断書を持参するという事態におちいった。ともかく行けば何とかなるだろうという生来の楽天性で、家族の心配をよそに、午後大阪へと鳴門を後にした。

### 8月16日 (金)

#### 新大阪コロナホテルにて

大阪地区・広島地区の参加者と合流し、事前研修会が行われた。それぞれが、初めての者ばかりで同じような期待と不安を抱いていたように思われる。米川先生は、ノースカロライナで滞在経験もあり、何度も現地を訪れているので、研修中の留意点について具体的に教えていただくことができた。特に、ノースカロライナ州の教育事情については、先生からの説明で特徴を少しつかむことができ(自分でインターネットを使って調べたときはまず英語に対する抵抗があり、理解するに至らなかったため)、今、振り返ってジャーナルを書いている、そうだったとうなずくところが多くあり、事前に聞いていてよかったと思う。

### 8月17日 (土)

午前中、後半の研修会があり、アンケートを渡される。GPSPのプロジェクトを続けたいかどうかについては、まだ行って体験していないので、イメージがわからない。

夕方、ノースウェスト航空にて関空を発ち、同日デ

トロイト経由シャーロット着。やや緊張気味だった私たちを温かく出迎えてくれたのは、WCUのDr. McGinty夫妻であった。

午後8時頃、バンに乗り込み宿泊先であるWCUのマディソンホールに向けて出発。途中でファーストフードのお店で夕食を済ませ、日付が変わる直前によく到着。

遅い時間にもかかわらず、Dr. Mwanikiと大学職員の谷口さんが待っていて迎えてくださった。快適な部屋とかごに盛られたフルーツやお菓子に感激。

### 8月18日 (日)

大学のブラウンカフェで朝食をとり、McGinty夫妻の案内で西地区の景勝地Blue Ridge ParkwayのGraveyard Fieldsへドライブ。車窓から見える木々や草花の様子は、徳島のそれとよく似ている。やはり緯度がほぼ同じことから、経度は地球の反対側であっても、自然の生態は類似しているのだと思った。

野外で食べたサンドイッチ。子どもたちが谷川で水と戯れ、ペットの犬たちも気持ちよさそうに水浴。摘み取ったばかりのブルーベリーの甘さ。ゆっくりと自然の中で過ごしたことで、時差ボケをほとんど感じずに過ごすことができた。

夕方は、WCUの元教育学部長のDr. Smithのホームパーティーに招かれる。各自が飲み物や食べ物(小野先生は素敵なお花束)を持ち寄り、自由に飲んだり食べたりしながら会話を交わす。アメリカではこういった形式張らないパーティーがよく行われるの



であろう。初対面でも気軽に話ができ、人間関係が広がっていく。せっかくの機会なのに、英語がもう少し話せたらと残念に思った。アメリカの先生方とは挨拶程度で終わり、アメリカの文化や教育事情について直接交換することはできなかった。WCUの谷口さんから、こちらの様子をいろいろと聞くことができた。

8月19日(月)

#### Cullowhee Valley Elementary School 訪問

玄関前にはようこそ「カロウィー・バリー小学校へ」という歓迎の言葉があり、着物や羽織を着た先生、生徒が出迎えてくれる。

最初に通されたのは、メディアセンター。今回のアメリカ訪問で私がもっとも関心を持っているのがこのメディアセンターである。ここで、保護者のお母さんたちが用意してくださった手作りの朝食をいただく。温かいミートパイや果物・デザートケーキなど、どれもおいしい。外国からの訪問者に心からのおもてなしをしてくださる。学校とPTAの関係がうまくいっているのだなあと推察できる。

初めに体育館で歓迎の全校集会がある。Kの幼稚園生が、合衆国の旗の大きなカードを持って入場。先生の後について一列になり、とてもかわいい。国歌の演奏に合わせて胸に国旗を掲げる。アメリカ国歌に続いて、日本の国歌が流れる。そのときに、子どもたちの持ったカードが一度に日の丸に変わり、私たちに喜ばせた。この子どもたちが大人になっても、どこの国の人も、仲良く尊敬し合えるような社会であってほしい。

校長先生の挨拶の後、学年ごとに趣向を凝らして各国の踊りを披露してくれた。私たちも、地元のチョロキーインディアンの歌と踊りに参加していっしょに踊る。また、阿波踊りを披露してくれたときも、飛び入



り参加で「よしこの」のリズムに日米の文化交流となった。衣装は、保護者が集めたり縫ってくれたりした物らしい。多大な協力体制だと思う。

その後、ガイドを7年生の女の子がしてくれ、教室を回って授業観察をする。7年生の「文学」の授業。教科書のテキストを少しずつ切って読んでいく。読みたい生徒が挙手をして、指名された生徒が読んでいた。一斉授業であり、日本の中学校の授業形態とよく似ていた。教科書は貸与で、ページ数が多い。カラーの挿し絵や写真が多く、日本の教科書よりもカラフルであった。

次に1年生の教室へ。新学期が始まったばかりだが、すっかり落ち着いて学習できているという印象を持った。英語の「e」の習得の授業を観察する。ワークシートで「e」の練習と言葉探しをしている。小学校の入門指導は日米共通である。

教室環境としてうらやましかったのは、教室にトイレが併設されていること。授業内容に合わせて、教室内で移動ができる広いスペースがあること。一人一人の机はなく、ラウンドテーブルにイスが並べてあった。驚いたのは、教室で大きな蜘蛛を飼っていたこと。ハムスターと共にかわいがられている様子であった。

最後に、4年生の算数の授業を観察する。プリントを各自がしながら、わからないところは教師に質問をしていた。社会ではノースカロライナの地理について学習することになっているようだ。子どもたちの机と椅子はパイプ製で引き出しはない。黒板はホワイトボード(黒板はブラック?)で、先生はあまり使っていない。

午後は、すぐ近くのSmoky Mountain High Schoolを訪問。校長先生が、校内の各施設を2時間近くかけて説明しながら案内して下さった。学校の周りは、車がいっぱい。教員だけでなく、生徒のほとんどが自家用車で通学ということに驚いた。15歳で仮免許、16歳で免許を取得できる。交通事故はめったに起こらないという。

3時過ぎには一斉に下校をするか、クラブ活動に行くかで、生徒が校舎からいなくなってしまう。日本の高校よりも、校時表の進行が1時間早く、授業時間も90分と長い。どちらがいいのだろうか。進級は成績次第というところが、日本よりもシビアである。

夕方、突然の雨。その中をNorth Carolina Center for the Advancement of Teaching (NCCAT)へ移動



し、少し休憩。教師のための研修センターということだが、徳島県の施設とはずいぶん違い、一週間泊まり込みで、自分の研究したいテーマにそって研修でき、教師のリフレッシュも意図しているという。教育改善には、教師の資質向上について一番に取り組むべきだと改めて痛感。

夜は、NCCATでWCU主催の歓迎レセプションを開いていただく。開会前、一昨年に明神小学校へいらしたバーバラ先生が私に会いに来てくださる。バーバラ先生の学校に今回は訪問できないが、昨年参加された上田美織先生とのつながりを中心にずっと続けていけたらと考えている。

レセプションでは、挨拶に続いて阿部先生(第二中)の尺八の演奏と訪問団の「いい湯だな」の余興を行う。阿部先生は、演奏だけでなく羽織袴姿も素敵で、和服のよさがよく伝わっていた。また、温泉という日本文化の紹介までには至らなかったが、和やかな雰囲気は出せたのではと思う。しかし、もう少し練習をしていけばよかったかなと反省。

私のパートナーのマリー・ハンスリー先生と通訳の京子・ミッキーさんに会える。マリー先生とは1年ぶりの再会だったが、旧知の友に会えたような感じでことのほかうれしかった。京子さんもとても優しい方で、次の日からの小学校訪問への不安が一挙に吹き飛んだ。

## 8月20日(火)

朝、ヘンダーソンビルのホテルまで、マリー先生が自家用車で迎えに来てくれる。アッシュビルの市街まで約40分かかる。毎日4日間送迎していただく。

Isaac Dickson Schoolの初日の日程

8:30	観察	4年生「文学」	ドナリン先生
9:30	紹介	メディアセンター	ヘイズ先生

10:30	紹介	Isaac Dickson School 校長先生
		Foxfire Core Practicesについて
		解説

12:00	カフェテリアでランチ
-------	------------

12:30	観察1・2年生「体育」	ウィーバー先生
-------	-------------	---------

12:45	観察1・2年生「美術」	タンボー先生
-------	-------------	--------

2:00	アッシュビル教育長	ロバート・ローガン
		「アッシュビルの教育事情について」会見

3:00	学校に帰って
------	--------

次の日の授業準備

初めての登校。教育実習のときのような緊張感である。しかし、廊下ですれ違う職員や子どもたちの「Hello」の明るいあいさつに緊張も解け、だんだんなじんでくる。

Isaac Dickson Elementary School は、Kから5年生までの375名。学級数18で、職員の数60名である。私のホストクラスは4年生のドナリン先生のクラスである。児童数18名。アシスタントティーチャーと2人で子どもたちの教育にあっている。どのクラスも20人程度で教師は2人で担当している。昨年度、私が4年生39名の担任を1人でしていたことを話すと、とても驚いていた。違いすぎる点である。メディアセンターの見学については、研究レポートで詳しく書くことにしてここでは省略する。

校長のDr. Vicki Dineen に、明神小学校の学校生活のビデオと国旗、鳴門市の観光ビデオ、阿波踊りのビデオなどをプレゼントする。おしゃれな校長先生は、おみやげに渡した徳島の藍染めのハンカチーフをととても喜んでくださる。日本から Isaac Dickson Elementary School へ教師が訪問したのは、今回が初めてであった。そこで、これからも交流を続けていくことを願い、そのための方法についても話す。このプロジェ

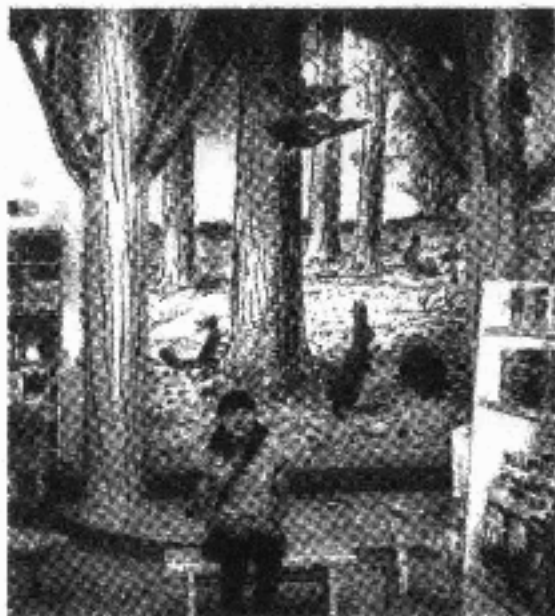


クトが続くのなら、来年はドナリン先生が派遣予定だということを知る。

その後、校長室でこの学校の特色であるFoxfire Core Practicesについて説明を聞く。経験主義に基づいた教授法で、日本の総合学習によく似ているなと感じた。

私のパートナーであるマリー先生は、Isaac Dickson Elementary SchoolでAcademically Gifted Programの担当教師である。そのため学級担任はしていない。2つの学校を兼任していて、籍はAsheville City Schools(教育委員会のようなところ)にある。その上司であるローガン氏は、日本の教育制度に高い関心を持っており、アッシュビルの教育向上のためにたいへん熱心な方であるとマリー先生から伺った。

3時に学校へ帰ると、子どもたちはもう下校していない。先生方も3時半には帰ってもよいということである。あわただしく過ごした初日であった。しかし、心地よい疲れであった。夕方までの時間、私はアッシュビルの本屋さんへ連れて行ってもらった。児童書の展示コーナーに行き、日本で翻訳出版されている絵本の原書を購入することができた。アッシュビルで一番大きな書店ということであるが、さすがに児童書のディスプレイが美しい。そして、読み聞かせのコーナーもゆったりと場所をとってあることに感心した。



## 8月21日(水)

第2日から、私が日本文化について授業をする。

9:00	観察	K・1・2年生	「入門期の指導」	シルコック先生
10:30	授業	4年生	日本語「ひらがな」	(吉成)
11:30			マリー先生の部屋でランチ	
12:00	講話	学校カウンセラー	スコット先生	

12:45	観察	3年生	「音楽」	Hughes先生
-------	----	-----	------	----------

1:30	授業	K・1・2年生	「折り紙」	(吉成)
------	----	---------	-------	------

3学年の子どもたちが同じ教室で学習している。こういった光景は日本では見られないのではないだろうか。生活科や総合学習で異学年の交流学习はよく行われている。だが、常時3学年が同じ教室で学ぶことは、発達段階の上で無理があるのではと思われる。

しかし、シルコック先生の話聞いて考えが少し変わり、3学年または2学年が共に学ぶシステムもよさがあることがわかった。それは、異学年集団であると、上学年の子どもは下の子どもの世話をするようになるということ。下の学年の子は、上の学年の子がしていることを見ていて、自然に学ぶことも多いとか。また、各自が自分にあった課題のもと、自分で学習する習慣がついてくるなど。

もちろん、問題もたくさんあるであろう。生活年齢は同じでも、能力の差は大きい。上下の逆転もあるだろう。Isaac Dickson Elementary Schoolでは、K(5歳児)だけのクラス、1・2年生のクラス、K・1・2年生のクラスと3タイプあり、保護者の希望に合わせて、振り分けられるそうだ。3学年からは、すべて同学年のクラスとなる。

保護者である京子さんの話。長女のリアンは、1年前に転校してきて、1・2年生のクラスを希望したが、人数の都合でK・1・2のクラスになり、初めは不安であったが、次第に生き生きと学校生活を送れるようになり、それまで依存性の強かった性格が、自分から進んでする子どもに変わってきたと母親は喜んで見守っている、とのこと。

さて、今日はいよいよ私の授業となる。昨日、観察した4年生のクラスで、日本語のひらがなの授業(授業というよりはデモンストレーション)を京子さんに通訳をしてもらいながら行った。導入では、日本の地理やアニメキャラクターなどの話をする。ポケモンやデジモンが大人気で、「ピカ」と言うと、みんなの顔がほころぶ。ポケモンのカードに日本語で書かれているものがあるらしく、興味を持って取り組んでくれた。しかし、1時間では字を覚えるまではいかず、ひらがなカードや日本地図などを残して見てもらい、今後も関心を持ってくれたらと思う。

ランチの後で、学校カウンセラーのスコット先生か

ら、カウンセリングの実際について説明を受ける。不登校の子どもはいないらしいが、親の保護が十分でなく学校に来にくいという子どもはいるようだ。また、生活リズムの乱れから、授業に集中できにくい子どものケアも必要とのこと。訪問中にも、スコット先生の部屋で保護者が相談に来ていた。子育てのことで何でも悩みを話せるような雰囲気なのだろう。

人権問題、中でも人種差別について質問を試みた。Isaac Dickson Elementary Schoolは全体の約40パーセントが、African-Americanであり、民族の多様性からくる差別問題はないのか疑問だったからである。その答えは、ほとんどないということであった。それは、幼い頃から一緒に育つことで人種による偏見はないが、貧富による生活スタイルの違いや差別の方が多いためだ。

また、学校のホームページにもあるように「Cultural Diversity」(文化的多様性)を大切に、多様な文化を学ぶことに重点を置いていると述べている。公教育機関であっても、Foxfireと合わせて、学校の特色つまり独自性を強く打ち出しているところは、日本の公立学校にも求められているモデルであろうと思われる。

#### 8月22日(木)

3日目は、地元アッシュビルの新聞記者の取材があり、「Calligraphy」の授業だけでなく、GPSについて体験談を聞かれ、自分の考えをまとめるよい機会となった。

8:30	観察	5年生「Native American folklore」
		メディアセンター
		ヘイズ先生 キャステラ先生
10:30	授業	4年生「Calligraphy(書写)」
		(吉成)
11:30		新聞社の取材・インタビュー
12:30		ランチ
1:20	授業	1・2年生「折り紙」(吉成)

1時間目のメディアセンターでの授業は、たいへん興味深かった。少数民族に書かれた民話の絵本の読み聞かせを導入部分に設定し、自分たちで課題を決めて学習をさせるという「Foxfire Core Practices」であったからだ。

(詳しくは研究レポート参照)

4年生「Calligraphy(書写)」では、通訳の京子さんのアドバイスもあり、「川」と「友」の二文字に絞って書く練習をさせた。漢字に興味を持っている子どももいるので、少し難しい漢字も読みを教えたり、意味を当てさせたりした。川や山から、漢字が象形文字であるということも理解してもらえた。

授業後のインタビューで、男の子が「今日、日本の和紙を使って習字ができたクラスは、アメリカでオンリーワンかもしれない。」と誇らしげに言ってくれたのが印象的であった。筆も珍しいと思うが、和紙に関心を持っている子どもが多かった。素直に感想を答えてくれるのを聞いていると異文化の授業をしてよかったと思った。

「折り紙」の授業では、年齢が小さかったので「ピアノ」(オルガン)を作ることにした。これも、京子さんと相談して行ったものだが折った後、自分で絵が描けるのも喜ばれた。サポートしてくれる先生がたくさんいたので、すべての子どもが完成をして満足感を味わうことができた。四角い紙から、いろいろな形を生み出す。奥が深いものだと改めて感じる。

#### 8月23日(金)

##### Isaac Dickson Elementary School 最終日

9:00	授業	5年生「茶道」(吉成)
10:00		5年生にインタビュー
11:30	ランチ	講話「カリキュラムについて」
		副校長 ウッズ先生
12:45	授業	5年生「絵本 やさいのおなか」
		(吉成)
1:30	観察	コンピュータ1・2年
		(ナダイン先生)
3:00	レセプション	メディアセンター

5年生の「茶道」の授業に、小野由美子先生が和服姿で参加してくださった。実を言うと私自身、日本で抹茶をいただくことは多くあるが、正式に茶道を習ったことはなかった。にわか仕込みの知識で恐縮だが、簡単に説明をしてデモンストレーションを行った。道具を一揃いしか持ってくることができず、抹茶を点てた後、紙コップで飲むという苦肉の策でしのいだ。茶筌を使って泡を立てるのが難しかったが、茶道の雰囲気多少なりとも味わえたのではないだろうか。



5年生のもう一つのクラスで、パネルシアターをつかって、クイズ方式に「これはなんですか?」という日本語の授業を試みた。私が日本語で話し、それを京子さんに訳してもらうことにより、日本語の言葉のイントネーションや言葉の響きを感じてもらうこともねらいとした。

やさいの名前で、「ピーマン」が英語ではなく「グリーンペッパー」であったり、「きゅうり」が「キューカンパ」と発音が似ていたりしたことを子どもたちと発見した。これが最後の授業となったが、していても楽しかった。

相違点と共通点を発見することが、異文化理解の原点ではないだろうか。そして、そのことを面白い (interesting) と感じ、互いを尊重すること。そういった体験を子どもの頃から積むことはとても大切なことだと実感した。

5年生に次のことをインタビューした。

- 1 学校は楽しいですか。
- 2 悩み (嫌なこと) は、ないですか。
- 3 テストについてどう思いますか。

学校が嫌いという子どもはいなかったように思う。そして悩みはないのかと尋ねると、1人ずつ聞いたときと学級全体で聞いたときでは対照的な答えが返ってきた。1人ずつ聞いたときは緊張気味で、いい答えを言わなくてはと感じさせたのかもしれない。すべての子どもが悩みはないと言い、テストは好きという子どももいて、好きではないが自分たちのために必要だと答えてくれる子どももいた。学級全体で聞いた場合は、悩みに「宿題が多いこと」「テストがいや」という本音の答えが返ってきたように思う。担任の先生がいても、自由にのびのびと答えてくれた。

最後は、メディアセンターで、学校の職員の方にも

ちろんのこと、NC出身の国會議員テイラー氏、教育長ローガン氏、WCUからムワニキ教授などたくさんの方が集まって、レセプションを開いていただいた。テイラー氏からは、アメリカ国旗に加えて州旗も贈呈していただき、光栄であった。

わずか4日間の訪問であったにもかかわらず、みなさんから数多くの友好の言葉をいただいた。私たちのために、力を尽くしてくださったマリー先生のご苦勞と思いやりに心から感謝を表したい。

## 8月24日 (土)

### マリー・ハンスリー先生宅で ホームステイ

マリーさんの自宅は、アッシュビルから北へ15分ほどのウェバービルにある。湖のほとりを通り、森の中に入っていくと、自然に囲まれた静かな住宅があった。ベランダでお茶を飲みながら、ハチドリが餌を食べにやってくるのが見られるという。秋は、紅葉できれいだろうと想像する。家の中は、壁には鳥や花のステキな絵が掛けてあり、趣味のよさを感じ取ることができる。

本当にゆっくりと休養をさせてもらう。そして、おいしいAmerican Breakfast をいただき、心も体もリフレッシュできた。アッシュビルの伝統工芸センターと植物保護センターへ案内してもらい、それからダウンタウンのコーヒーショップ・小物のお店など散策する。

## 8月25日 (日)

大学のバン2台で、13人が州都ラレーへ移動する。Isaac Dickson Schoolから、パートナーのマリー先生とドナリン先生が、サマリーカンファレンスを聞きに来てくださったので、心強かった。

車の中では、Dr. Mwaniki と Dr. Casey Hurley の流暢な英会話を聞きながら、少しずつ眠りの中へ。午後4時前にホリディ・インに到着。ムワニキ先生、長い間、運転ありがとうございました。

夕食は、大阪地区と合流し、日本食レストラン「歓喜」で寿司や串カツなどを食べる。そして、夜は徹夜に近い状態でサマリーカンファレンスに備える。

## 8月26日 (月)

サマリーカンファレンスが、Exploris 博物館にて9





—サマリーカンファレンスを終えて—  
(WCU地区の出席者全員で)

時から開催される。ドン・スペンス先生と米川先生のあいさつの後、ECU地区、UNC-W地区、WCU地区の順に研修成果のプレゼンテーションがあった。3年次ということもあるのであろう。どの地区も、これまでのパートナーシップを基盤に、自分たちが見聞したことを自分たちの言葉でうまくまとめていた。

ちなみに、WCU地区は「The U.S. children attitudes and School culture —授業実践を通して—」というテー

マで発表した。

8月27日（火）

#### Exploris Middle School を訪問

博物館に併設されたチャータースクールである。メディアセンターを見せてもらったが、狭く蔵書も少ない。教室に本を置いているからだろうか。今まで見たアメリカのメディアセンターの中では恵まれていないと感じた。

案内をしてくれた8年生が、質問にも一生懸命答えしてくれる。そして、「先生を尊敬している」と言った言葉が印象に残っている。

#### 州教育委員会・州立科学博物館・歴史博物館見学

とても立派な施設であった。

8月28日（水）

すべての日程を終え、元気に日本へ帰国。

たくさんの方々にお世話になったことを心から感謝している。お礼にかえて、貴重な体験をこれからの教育実践に生かしていけるよう努力していきたい。